

英語科海外ホームステイ研修4日目の報告をお送りいたします。

今日はホストスクールに集合しましたが、そこからバスでクイーンズランド工科大学（Queensland University of Technology=QUT）への訪問です。バスで2校に別れた生徒たちが再び集合し、一昨日別れたばかりにも関わらず、それぞれに今までになかったくらいに刺激的で、初めての体験をたくさんしているため、もうしばらく会っていなかったように、お互いに感じたこと、こういった体験をしたなど話が盛り上がっていました。ホストファミリー宅での生活、それぞれのホストスクールのこと、Morning Tea Time で出たお菓子やフルーツのこと、そしてバディのこと…、ちょっと聞き耳を立てましたが話が留まることなく、お互いに生き生きと報告しあっていました。

なお余談ですが、到着日にバスに財布を忘れた生徒がおり、バス会社に問い合わせていたのですが、バスに乗り込む際、前日も担当いただいたドライバーより財布が返却されました。海外で忘れた財布がかえってくることは稀で、本人も本当に肝を冷やしたことと思えますが、これを教訓にぜひ同じミスは犯さないよう気を付けていただきたいと思えます。

さてクイーンズランド工科大学についてはまずエネルギー学習です。Jordan と Brooke という学生2名より、石炭や石油に代わるエネルギーは何かという問いかけから、代替エネルギーを考えるワークショップを実施いただきました。特に中心となったテーマはソーラー発電で、環境との共存を考え、持続可能なエネルギーでもあるこのソーラー発電を、10人程度のグループ毎に実際のソーラーパネルを利用した装置で発電効率を調べ、どうしたら効率の良い発電ができるのか、曇りの場合や、周りの環境でどの程度発電効率が変わるのかなどの実験を行いました。生徒からは「ブリスベンも冬でも日が出ている ⇒ 冬にソーラーパネルが雪で覆われる福島でどうすべきか」などの質問が出ました。学生からは雪が多いということは水力発電等にも利用ができるので、太陽光発電にこだわる必要はなく、併用する手段がありうるということ、またその場にいたプログラムコーディネータのネイスンからは太陽光発電のエネルギーの一部をパネル自体に振り分け、雪を解かしながら発電をしていくシステムがあるということの説明いただき、代替エネルギーに関して深く理解することができ、また今後の可能性についても多くの示唆が得られた訪問となりました。

その後、この大学の魅力や大学生活に関して韓国からの留学生に説明をいただき、最後にキャンパスを見学いたしました。先日のクイーンズランド大学に続き、クイーンズランド工科大学への訪問と、2つの名門大学を訪問できたことは日本の大学を見る際にも大きな指標を手に入れたこととなります。全員が1年生のため、まだ大学のことを真剣に考える機会がなかった生徒がほとんどでしたが、これを機に将来に思いをはせ、それに向けた進学を考えるきっかけとしていただければと思います。それでは本日の報告は以上とさせていただきます。

■クイーンズランド工科大学にて



■ワークショップ

